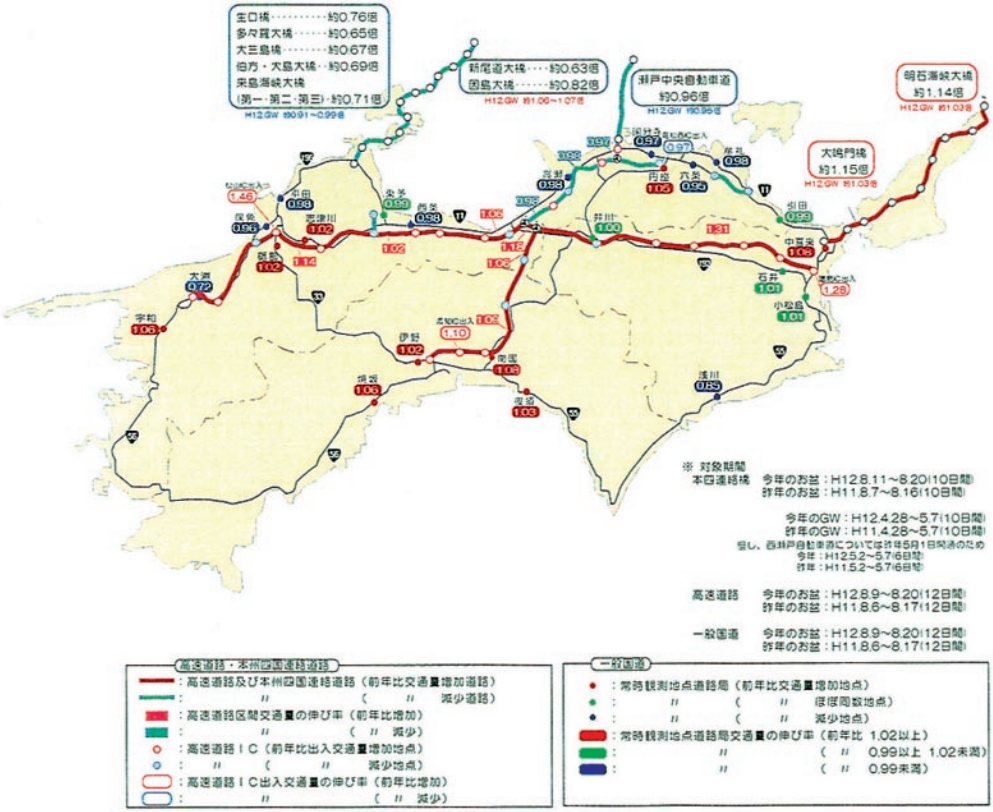
今年のお盆の四国内幹線道路利用状況

今年のお盆期間中の四国内の幹線道路利用状況を見ると、

○四国外との交通では、瀬戸中央道及び西瀬戸道が減少(4～37%減)、神戸淡路鳴門道が増加(14～15%増)している。今年のGW中の伸び率よりさらに伸び率の差が出たことから、本四間移動ルートが瀬戸中央道から神戸淡路鳴門道にシフトし、定着してきていると考えられる。

　また、西瀬戸道は昨年の全通ブームの反動により、大幅減少となった。

○四国内では高速道路利用は伸びており、Xハイウエー効果で、四国内々での移動が増加したことと、明石海峡大橋開通とXハイウエー開通により阪神方面からの乗り入れが増加した為と考えられる。

○一般国道では、松山道延伸により交通がシフトし、大洲では28%減となったが、宇和では延伸効果により6%増となった。中喜来は、神戸淡路鳴門道と徳島道を結ぶ区間にある為8%増であった。

　また、浅川の15%減、南国の8%増は、Xハイウエー開通により高知県東部への移動が、国道55号利用から高速道路利用へ転換した為と思われる。